

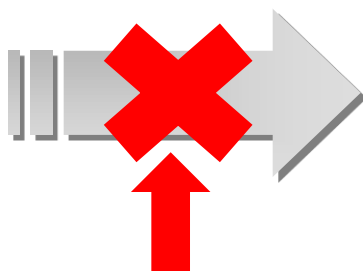
イチゴの総合的病害虫管理(IPM)技術

苗の炭酸ガスくん蒸処理によるハダニ類の本圃持込み軽減技術 施設園芸栽培の省力化・高品質実証研究

背景・ねらい

本圃で発生するハダニ類の多くは苗からの持ち込みです。ハダニ類が寄生していない苗を定植できれば、本圃でのハダニ類発生を大幅に軽減することができます。

成果の内容



苗に寄生したわずかなハダニが本圃での発生の主体！

長期にわたりハダニ類発生を抑制！

苗の炭酸ガスくん蒸処理により本圃へのハダニ類持込みを大幅に軽減できます

◎ 炭酸ガスくん蒸処理装置

炭酸ガスくん蒸処理装置は、比較的安価な装置から大規模施設用の大型装置まで数種類が販売されています。いずれも苗を24時間高濃度の炭酸ガスでくん蒸処理するものです。炭酸ガスは使用を誤ると重大な事故につながる可能性もありますので、必ず取り扱いメーカーや専門家の指導を受けた上で使用してください。炭酸ガスは農薬登録のあるものを、使用基準に従って正しく使用してください。



(株)アグリクリニック研究所製の炭酸ガスくん蒸処理装置の内部(上図)と外観(下図)

炭酸ガス処理装置用の炭酸ガスの農薬登録

作物名	適用病害虫	希釈倍数 使用量	使用方法	使用時期	本剤の 使用回数	適用場所	くん蒸 時間	くん蒸 温度	登録会社
いちご	ナミハダニ	くん蒸中ガス濃度 60%を維持するに 必要な量	倉庫等の下部から 気化器を用いて 投入する	定植前	1回	倉庫, 天幕等	24時間	25～30℃	日本液炭(株)
いちご	ナミハダニ	くん蒸中のガス濃度 80%程度を維持するに 必要な量	倉庫等の下部から 気化器を用いて 投入する	定植前	1回	倉庫, 天幕等	24時間	20～30℃	昭和電工ガス プロダクツ (株)

◎ 温度確保が重要です

炭酸ガスくん蒸処理は、処理中の温度が高いほど効果が高く、処理中の温度を20～30℃に保つことが重要です。処理中に20℃を下回る時間帯があった場合には、効果が劣る場合があるので注意が必要です。宮城県内では定植時期に当たる8月下旬頃から夜温が20℃を下回る日が出現するので、気象条件に注意し、専用の加温ヒーターを利用するなどの温度確保に努めてください。

■ 研究担当機関

- 宮城県農業・園芸総合研究所
- 農研機構 野菜花き研究部門
- 農研機構 中央農業研究センター
- (株)GRA
- パナソニックライティングデバイス(株)
- アリスタライフサイエンス(株)

■ お問い合わせ先

- 宮城県農業・園芸総合研究所 (三県連携農業コンソーシアム宮城県拠点) TEL: 022-383-8118